

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年11月14日

【四半期会計期間】 第41期第2四半期(自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日)

【会社名】 大阪製鐵株式会社

【英訳名】 OSAKA STEEL CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 岩 崎 正 樹

【本店の所在の場所】 大阪市大正区南恩加島一丁目9番3号
(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っておりま
す。)

【電話番号】

【事務連絡者氏名】

【最寄りの連絡場所】 大阪市中央区道修町三丁目6番1号

【電話番号】 06-6204-0163

【事務連絡者氏名】 財務部長 山 下 清 文

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第40期 第2四半期 連結累計期間	第41期 第2四半期 連結累計期間	第40期
会計期間		自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高	(百万円)	35,709	44,080	81,100
経常利益	(百万円)	3,380	3,299	6,703
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	2,162	1,787	4,318
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,904	1,557	4,028
純資産額	(百万円)	142,649	145,004	144,286
総資産額	(百万円)	180,588	197,738	194,130
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	55.56	45.93	110.95
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	77.4	72.0	72.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	63	461	854
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	6,744	2,051	8,973
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	6,350	2,812	11,498
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	58,444	60,826	60,598

回次		第40期 第2四半期 連結会計期間	第41期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	15.50	1.32

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

平成30年3月期有価証券報告書（平成30年6月28日提出）により開示を行った内容から重要な変更がないため、記載を省略しております。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

（経営成績の概況）

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が継続し、好調な企業収益を背景に設備投資は増加し、個人消費に持ち直しの動きがみられたことで、全体としては緩やかながらも回復基調が続くこととなりました。

鉄鋼業界につきましては、自動車向けをはじめとする製造業向け鋼材需要は全般的に盛り上がりを欠く水準で推移したものの、建設向け鋼材需要は増加の傾向が見られ、総じて鋼材需要は堅調に推移しました。また海外についても、中国は依然高水準で鉄鋼生産を継続しておりますが、鋼材輸出については減少が続いたことなどを受け、市況については底堅く推移しました。

当社の属する普通鋼電炉業界におきましては、鋼材需要について堅調に推移したものの、主原料であるスクラップ価格が高止まりし、夏以降さらなる上昇に転じたことに加え、副原料や主要資材価格、燃料価格等の高騰が継続したことにより、製造コストが増加したことで、引き続き厳しい経営環境となりました。

このような厳しい経営環境において、当社グループはコンプライアンスの強化・充実を図りつつ、安全衛生・環境・防災のリスク管理強化を進めるとともに、品質向上および商品力強化を一段と推進してまいりました。また、現場・現実に根差した操業努力による徹底したコスト削減に取り組みつつ、更なる省エネルギー・省資源化操業の追求など、外部環境の変化に対応したコスト低減にも取り組んでまいりました。

加えて、当社グループは、『2020年度連結中期計画 ～新たな飛躍～』を策定し、PT.KRAKATAU OSAKA STEEL（以下、KOS社）を中心とした成長戦略の推進や、グループ国内事業の効率的な生産・物流体制の一層の強化にも鋭意取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループにおける鋼材売上数量は55万7千トン、売上高は440億8千万円（前年同期実績357億9百万円）、経常利益は32億9千9百万円（前年同期実績33億8千万円）となりました。また、平成30年台風第21号による工場建屋等への災害損失を特別損失に計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は17億8千7百万円（前年同期実績21億6千2百万円）となりました。

(財政状態の概況)

資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べ2.6%増加し、1,252億8千6百万円となりました。これは、主として棚卸資産が32億円、現金及び預金が5億8千9百万円増加したことによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ0.6%増加し、724億5千1百万円となりました。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ1.9%増加し、1,977億3千8百万円となりました。

負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べ9.1%増加し、356億9千9百万円となりました。これは、主として短期借入金が増加し、未払法人税等が8億2千2百万円減少したことによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ0.6%減少し、170億3千3百万円となりました。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ5.8%増加し、527億3千3百万円となりました。

純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ0.5%増加し、1,450億4百万円となりました。これは、主として親会社株主に帰属する四半期純利益などにより利益剰余金が増加したことによるものです。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度に比べ2億2千7百万円増加し、608億2千6百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、当第2四半期連結累計期間において使用した資金は、4億6千1百万円(前年同期実績6千3百万円の支出)となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益28億4千万円、減価償却費19億4千5百万円、支出の主な内訳は、たな卸資産の増加額32億8千4百万円、法人税等の支払額20億6千5百万円であります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、当第2四半期連結累計期間において使用した資金は、20億5千1百万円(前年同期実績67億4千4百万円の支出)となりました。支出の主な内訳は、固定資産の取得20億2千5百万円などでありま

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、当第2四半期連結累計期間において得られた資金は、28億1千2百万円(前年同期実績63億5千万円の収入)となりました。収入の主な内訳は、短期借入金の増加額37億2百万円、支出の主な内訳は、配当金の支払い8億1千7百万円などであります。

(3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、これまで築き上げた揺るぎない経営基盤を活かしつつ、様々な課題に積極的に対応し、「新たな飛躍」に向けた体質強化と成長戦略を推進すべく、『2020年度連結中期計画』を策定し、平成30年3月に公表いたしました。

その主要な内容は、海外事業(KOS社)の着実な推進、品質・商品力の更なる強化、グループ国内事業の効率的な生産・物流体制の構築、省エネルギー・コスト対策の推進等であり、以下の経営計画(数値目標)の達成を目指してまいります。

売上高1,000億円(海外比率37%)、鋼材出荷量150万t、経常利益100億円、ROS10%

(4) 研究開発活動

当期は新商品開発、製造プロセス改善、圧延生産性向上、ピレット及び製品品質向上をテーマに上げ、技術開発・操業改善に取り組んでおります。

なお、当第2四半期連結累計期間においては、新商品開発にかかる研究開発費を1百万円計上しております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	113,812,700
計	113,812,700

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	42,279,982	42,279,982	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株であります。
計	42,279,982	42,279,982		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年9月30日		42,279		8,769		11,771

(5) 【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を除く。) の総数に対する 所有株式数の割合(%)
新日鐵住金(株)	東京都千代田区丸の内二丁目6番1号	25,629	65.85
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,749	4.50
立花証券(株)	東京都中央区日本橋茅場町一丁目13番14号	1,191	3.06
日本マスタートラスト信託銀行(株)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	847	2.18
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウント ジエイピーアール デイ アイエスジー エフイー ・エイシー (常任代理人 (株)三菱UFJ銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	808	2.08
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	PALISADES WEST 6300,BEE CAVE ROAD BUILDING ONE AUSTIN TX 78746 US (東京都新宿区新宿六丁目27番30号)	540	1.39
三井物産スチール(株)	東京都港区赤坂五丁目3番1号 赤坂 BIZタワー34階	480	1.24
ビービ エイチ ポストン フォー ノムラ ジャパン ス モラー キャピタライゼイ ション ファンド620065 (常任代理人 (株)みずほ銀行)	180 MAIDEN LANE, NEW YORK, NEW YORK 10038 U.S.A. (東京都港区港南二丁目15番1号 品川 インターシティA棟)	479	1.23
クレディ・スイス・セキュリ ティーズ(ヨーロッパ)リミ テッド メインアカウント (常任代理人 クレディ・ス イス証券(株))	ONE CABOT SQUARE LONDON E14 4QJ (東京都港区六本木一丁目6番1号 泉 ガーデンタワー)	465	1.20
(株)三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	352	0.91
計		32,544	83.62

- (注) 1 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社、日本マスタートラスト信託銀行株式会社は信託業務に係る株式であります。
- 2 平成29年11月30日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書に係る変更報告書において、エフィッシモ キャピタル マネージメント ピーティーイー エルティーディーが平成29年11月24日現在で2,140千株を保有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
- なお、エフィッシモ キャピタル マネージメント ピーティーイー エルティーディーの大量保有報告書の変更報告書の内容は次のとおりであります。
- | | |
|---------|---|
| 大量保有者 | エフィッシモ キャピタル マネージメント
ピーティーイー エルティーディー |
| 住所 | 260 オーチャードロード #12-06 ザヒーレン
シンガポール 238855 |
| 保有株券等の数 | 株式 2,140,600株 |
| 株券保有割合 | 5.06% |

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,358,600		単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 38,881,700	388,817	同上
単元未満株式	普通株式 39,682		
発行済株式総数	42,279,982		
総株主の議決権		388,817	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が 200株含まれております。
2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式 84株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 大阪製鐵株	大阪市大正区南恩加島 一丁目9番3号	3,358,600		3,358,600	7.94
計		3,358,600		3,358,600	7.94

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
常務取締役、 大阪事業所長、 Sプロジェクト班長、 教育に関する事項について CLOを補佐	常務取締役、 大阪事業所長、 大阪事業所堺工場長、 教育に関する事項について CLOを補佐	藤田 和夫	平成30年7月1日

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,948	4,537
受取手形及び売掛金	1、 2 20,233	1、 2 20,309
製品	13,050	16,245
仕掛品	484	461
原材料及び貯蔵品	5,807	5,836
未収入金	2 11,831	2 11,481
関係会社短期貸付金	10,000	10,000
預け金	56,650	56,288
その他	119	128
貸倒引当金	2	2
流動資産合計	122,123	125,286
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,058	8,159
機械装置及び運搬具（純額）	22,118	22,075
工具、器具及び備品（純額）	1,767	1,784
土地	35,660	35,583
建設仮勘定	1,285	1,200
有形固定資産合計	68,890	68,802
無形固定資産		
その他	230	191
無形固定資産合計	230	191
投資その他の資産		
投資有価証券	2,155	2,037
長期貸付金	1	1
退職給付に係る資産	89	89
繰延税金資産	272	439
その他	389	889
貸倒引当金	22	
投資その他の資産合計	2,885	3,457
固定資産合計	72,006	72,451
資産合計	194,130	197,738

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1、 2 14,831	1、 2 14,834
短期借入金	8,588	12,159
1年内返済予定の長期借入金	80	59
未払金	2 5,103	2 5,362
未払法人税等	2,153	1,331
修繕引当金	418	383
災害損失引当金	212	384
その他	1,322	1,185
流動負債合計	32,710	35,699
固定負債		
長期借入金	13,048	12,735
繰延税金負債	1,525	1,648
退職給付に係る負債	1,643	1,727
事業構造改善引当金	518	517
厚生年金基金解散損失引当金	70	70
その他	327	334
固定負債合計	17,133	17,033
負債合計	49,843	52,733
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,769	8,769
資本剰余金	10,904	10,904
利益剰余金	125,490	126,461
自己株式	4,535	4,535
株主資本合計	140,629	141,599
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	782	700
繰延ヘッジ損益	108	212
為替換算調整勘定	63	44
退職給付に係る調整累計額	91	76
その他の包括利益累計額合計	862	792
非支配株主持分	2,795	2,612
純資産合計	144,286	145,004
負債純資産合計	194,130	197,738

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	35,709	44,080
売上原価	29,128	37,188
売上総利益	6,581	6,891
販売費及び一般管理費		
運搬費	1,503	1,720
給料及び賞与	549	565
退職給付費用	23	24
減価償却費	46	49
その他	1,050	1,094
販売費及び一般管理費合計	3,173	3,454
営業利益	3,408	3,437
営業外収益		
受取利息	70	75
受取配当金	18	21
固定資産賃貸料	117	206
その他	63	74
営業外収益合計	270	378
営業外費用		
支払利息	106	200
固定資産除却損	96	80
租税公課	55	39
為替差損	3	156
その他	36	39
営業外費用合計	298	516
経常利益	3,380	3,299
特別損失		
災害による損失		458
特別損失合計		458
税金等調整前四半期純利益	3,380	2,840
法人税、住民税及び事業税	1,442	1,270
法人税等調整額	56	57
法人税等合計	1,385	1,212
四半期純利益	1,994	1,627
非支配株主に帰属する四半期純損失()	168	160
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,162	1,787

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	1,994	1,627
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	199	81
繰延ヘッジ損益	26	129
為替換算調整勘定	277	134
退職給付に係る調整額	14	15
その他の包括利益合計	89	70
四半期包括利益	1,904	1,557
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,133	1,718
非支配株主に係る四半期包括利益	228	160

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,380	2,840
減価償却費	1,870	1,945
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	22
修繕引当金の増減額(は減少)	13	35
事業構造改善引当金の増減額(は減少)	3	1
災害損失引当金の増減額(は減少)	22	172
受取利息及び受取配当金	89	96
支払利息	106	200
固定資産除却損	96	80
固定資産売却損益(は益)	1	4
売上債権の増減額(は増加)	2,390	130
たな卸資産の増減額(は増加)	2,733	3,284
未収入金の増減額(は増加)	2,469	317
仕入債務の増減額(は減少)	2,365	87
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	64	85
その他	542	466
小計	703	1,687
利息及び配当金の受取額	89	96
利息の支払額	95	180
法人税等の支払額	760	2,065
営業活動によるキャッシュ・フロー	63	461
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の売却による収入	1	5
固定資産の取得による支出	6,770	2,025
投資有価証券の取得による支出	2	
その他の収入	34	0
その他の支出	8	31
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,744	2,051
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	2,822	3,702
長期借入れによる収入	4,289	
長期借入金の返済による支出	59	51
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	681	817
非支配株主への配当金の支払額	20	22
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,350	2,812
現金及び現金同等物に係る換算差額	36	70
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	493	227
現金及び現金同等物の期首残高	58,938	60,598
現金及び現金同等物の四半期末残高	58,444	60,826

【注記事項】

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日至平成30年9月30日)
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。
 なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、以下の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形	49百万円	88百万円
支払手形	16 "	0 "

- 2 当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、債権債務の一部について期末日期的ものが四半期連結会計期間末残高に含まれております。
 その主なものは以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
売掛金	2,401百万円	2,783百万円
未収入金	2,909 "	2,625 "
買掛金	2,502 "	2,173 "
未払金	720 "	755 "

(四半期連結損益計算書関係)

災害による損失

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

本年9月に発生しました平成30年台風第21号により、当社大阪事業所及び子会社である日本スチール株式会社において被害が発生し、その災害による損失額458百万円を計上しております。内訳は、建物等の現状復旧費用387百万円、製品の評価損71百万円であります。

なお、現時点で合理的な見積りが可能な範囲における見積額を計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成30年 4 月 1 日 至 平成30年 9 月30日)
現金及び預金	1,529百万円	4,537百万円
預け金	56,914 "	56,288 "
現金及び現金同等物	58,444百万円	60,826百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月16日 取締役会	普通株式	681	17.50	平成29年3月31日	平成29年6月7日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年10月31日 取締役会	普通株式	486	12.50	平成29年9月30日	平成29年12月7日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年5月17日 取締役会	普通株式	817	21.00	平成30年3月31日	平成30年6月6日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年10月31日 取締役会	普通株式	661	17.00	平成30年9月30日	平成30年12月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

当社グループは普通鋼の生産及び製品等の販売並びにこれらの運送を包括的に営んでおり、当社グループで経営資源の配分の決定及び業績評価を行っていることから、事業セグメントは単一であり、該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

当社グループは普通鋼の生産及び製品等の販売並びにこれらの運送を包括的に営んでおり、当社グループで経営資源の配分の決定及び業績評価を行っていることから、事業セグメントは単一であり、該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	55円56銭	45円93銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	2,162	1,787
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	2,162	1,787
普通株式の期中平均株式数(株)	38,921,544	38,921,356

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

第41期(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)中間配当については、平成30年10月31日開催の取締役会において、平成30年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

(1) 配当金の総額	661百万円
(2) 1株当たりの金額	17円0銭
(3) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成30年12月6日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月14日

大阪製鐵株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 浅野 豊 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岸田 卓 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大阪製鐵株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大阪製鐵株式会社及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。